

# 海外における日本語教育事業概観

## 1—海外日本語教育機関のネットワーク形成と強化

### ① JFにほんごネットワーク (通称: さくらネットワーク)

海外の中核的な日本語教育機関、日本語教師会をつなぐ「JFにほんごネットワーク」は、2011年度末には42カ国2地域118機関にまで拡大しました。これらの機関によるセミナー、巡回指導、教材開発などを支援しました (P.20 参照)。

### ② 日本語専門家等派遣

海外における日本語教育の中核となる機関に対して、以下の通り日本語上級専門家、日本語専門家などを派遣しました。また、2012年度に派遣する日本語専門家などに対して、業務に必要な専門知識・技能に関する派遣前研修を実施しました (P.20 参照)。

- 日本語上級専門家: 26カ国38件
- 日本語シニア専門家: 1カ国1件
- 日本語専門家: 24カ国47件
- 日本語指導助手: 14カ国22件

### ③ 21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) 受託事業

JENESYS プログラムの一環として受託し、大学で日本語教育を専攻した若手日本語教師を東アジア諸国に派遣しました。

- 若手日本語教師派遣: 10カ国45名

### ④ 日本語教育機関支援・日本語教育プロジェクト支援

海外において日本語教育の中核となる機関に助成を実施しました。

- 日本語普及活動助成: 67カ国173件

### ⑤ 国内連携による日本語普及支援

日本語教師養成課程を有する日本国内の大学・大学院との連携により海外日本語教育実習生 (インターン) の派遣を行いました。また、日本語教育学会が実施する海外日本語普及・日本語教育振興事業に対して助成を行いました。

- 海外日本語教育インターン: 28カ国1地域380件
- 日本語教育学会助成: 3件

## 2—日本語能力試験

2011年7月3日および12月4日に試験を実施し、海外61の国・地域で、約49万人が受験しました。チリ、エクアドル、オーストリアの3カ国で新たに試験を開始し、江陵 (韓国)、南通、西寧、福州 (中国)、ジョホールバル (マレーシア)、モンテレイ (メキシコ)、エディンバラ (イギリス) が新たに試験実施都市となりました (P.21 参照)。

- 第1回 (7月) 海外20の国・地域・96都市、受験者数 約21万人

- 第2回 (12月) 海外60の国・地域・196都市、受験者数 約28万人

また、『日本語能力試験公式問題集』を発行しました。N1からN5まで各1冊、計5冊に分かれており、各レベルとも試験1回分に相当する数の問題を掲載しています。問題用紙の表紙、解答用紙のサンプル、聴解の試験問題用CD、聴解試験問題のスク립ト (音声を文字にしたもの) も含まれています。

## 3—海外日本語講座の充実

2011年度より、一般市民を対象とした日本語講座 (通称: JF 講座) を拡充しました。「JF日本語教育スタンダード」を取り入れた新たなカリキュラムを導入し、日本文化理解に重点をおいた授業を行っています。

2011年度には、国際交流基金の海外拠点21カ所と、ウクライナ、カザフスタンの日本センターでそれぞれJF講座が開講され、のべ8千人が受講しました。

## 4—日本語国際センターにおける研修事業

海外の日本語教師を招へいし、以下の教師研修を実施しました。また、研修生と地域住民の交流など、地域のニーズに配慮した事業を併せて実施しました (P.22 参照)。

### ① 海外の日本語教師招へい

- 海外日本語教師長期研修: 30カ国57名
- 海外日本語教師短期研修: 41カ国127名
- 韓国高校日本語教師研修: 35名
- 中国 (大学・中等学校) 日本語教師研修: 57名
- マレーシア中等教育日本語教師研修: 6名
- 日本語教育指導者養成プログラム (修士課程 [新規]): 4カ国4名
- 日本語教育指導者養成プログラム (修士課程 [継続]): 6カ国6名
- 日本言語文化プログラム (博士課程 [継続]): 5カ国5名
- 海外日本語教師上級研修: 5カ国11名

### ② 21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS) 受託事業

- 東アジア若手日本語教師特別招へい研修: 10カ国45名
- 南アジア若手日本語教師特別招へい研修: 3カ国17名

### ③ その他の受託事業

- ロシア若手日本語教師研修: 9名
- 台湾日本語教師短期研修: 8名

### ④ 日本語国際センター図書館

日本語教育専門図書館として、図書・視聴覚資料47,259点、雑誌・紀要等726誌を所蔵し、情報・資料の提供を行いました(利用者数:19,666人、貸出点数:13,817点)。

## 5—日本語教材・教授法等開発・普及

多様な日本語学習ニーズに対応するための日本語教材や、日本語教師を支援するウェブサイトなどを開発・運営しました(P.23参照)。

○『まるごと 日本のことばと文化』試用版開発

「JF日本語教育スタンダード」に準拠したコースブックとして

『まるごと 日本のことばと文化』試用版の開発を進めました。

○「エリンが挑戦! にほんごができます。」(映像教材・ウェブサイト)

NHK教育テレビで再放送。ブラジル、スリランカ、韓国、フィンランド、インドネシア、アメリカ(ハワイ州、南カリフォルニア)、ベトナム、ラオスの8カ国、計9つのテレビ局で放送(現地語の字幕・吹替版)。また、2010年3月に公開したWEB版「エリンが挑戦! にほんごができます。」は既存の日本語、英語版に加え、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語を公開。さらにフランス語、インドネシア語の2カ国語版を追加制作しました。

○「アニメ・マンガの日本語」(ウェブサイト)

従来の英語、スペイン語、韓国語、中国語に加え、フランス語を追加、5言語すべてで13種類の全コンテンツが利用できるようになり、開発を終了しました。アクセス件数は240万件。

○「NIHONGO eな」(ウェブサイト)

日本語学習に役立つウェブサイトやツールを紹介するポータルサイトを運営。英語と日本語に加え、一部のコンテンツは中国語と韓国語でも提供しています。アクセス件数は102万件。

○「みんなの教材サイト」(ウェブサイト)

コミュニティ機能および管理機能を拡充、教材用素材を追加しました。アクセス件数は約400万件。

○JF日本語教育スタンダード普及活動

J-GAP(日本語グローバル・アーティキュレーション・プロジェクト)会議を2件実施。日本語教育の現場の繋がりを促進する有効なツールとして「JF日本語教育スタンダード」の利用を広めました。

また、国内外において「JF日本語教育スタンダード」を紹介するセミナーやワークショップ等を11件実施しました。

○日本語教育情報交流

後述のふたつの日本語教育関係資料を刊行し、配布およびウエ

ブサイトで公開したほか、図書館に寄贈しました。

●「日本語教育通信」(ウェブサイト)

●『国際交流基金日本語教育紀要』8号(冊子・ウェブサイト)

## 6—関西国際センターにおける研修事業

### ①専門日本語研修・日本語学習者訪日研修など

関西国際センターでは、海外における日本語学習者支援の観点から、他機関では十分に教育を行うことが難しい専門性の高い日本語研修、学習奨励研修と、地方自治体等関係機関との連携強化のための事業を実施しました。

○専門日本語研修:[外交官]28カ国29名/[公務員]8カ国9名/[文化学術専門家]22カ国53名

○日本語学習者訪日研修:[大学生]29カ国69名/[各国成績優秀者]62カ国65名/[高校生]11カ国30名/[李秀賢氏記念韓国青少年招へい事業]30名/[米国JET記念高校生招へい]32名

○大学連携大学生訪日研修:25カ国80名

○大阪府クィーンズランド州日本語教師研修:5名

○大阪府JET来日時研修:4カ国17名

○タイ日本語教師会(JTAT)教師研修:32名

### ②21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)受託事業

○東アジア日本語移動講座:7カ国38名

○東アジア日本語履修大学生:[夏季]8カ国34名/[秋季]5カ国24名

○南アジア日本語履修大学生:7カ国39名

### ③その他の受託事業

○香港中文大学大学生訪日研修:8名

○インドネシア人大学生日本語研修:2名

○キャノンベトナム訪日研修:1名

### ④関西国際センター図書館

日本の文化・社会を紹介する資料を中心に図書・視聴覚資料49,716点、雑誌等266誌を所蔵し、情報・資料の提供を行いました(利用者数:16,320人、貸出点数:9,273点)。

## 7—経済連携協定(EPA)に基づく

### 看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

経済連携協定に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者への日本語予備教育受託事業を実施しました。

○インドネシア:200名/フィリピン:100名